第２回　蕨市行政改革プラン策定に係る市民懇談会　会議概要

■日　時　令和６年８月２９日（木）　午後１時３０分～午後２時３５分

■場　所　市役所５階　第１・２委員会室

■出席者（敬称略）

委　員：林 大樹、坪井 真、植田 富美子、長谷川 浩司、岡本 和子、梅谷 知弘
吉田 愛佳、笹渕 敏子、中村 和弘
（欠席者）林 枝里

事務局：阿部 泰洋（総務部長）、佐藤 則之（総務部次長兼政策課長）
菊地 雅治（政策課係長）、市川 翔太（政策課主査）
藤田 睦子（政策課主事）

■次　第

１．開会
２．議題
（１）新たな行政改革プランについて
（２）その他
３．閉会

■内　容

【開会】

【議題】

（１）新たな行政改革プランについて

事務局から、新たな行政改革プランについて、３本の柱「１　協働の更なる推進」、「２　職員力・組織力の更なる向上」、「３　自律した行財政運営」を前提に考えたいことを伝えたうえで、それぞれの柱での検討の視点や今までの市の取組状況などを示した。（資料１～３・参考資料参照）

会　　長：行政改革に関して、３つの柱ごとに意見をいただきたい。また、資料に記載された項目に加えて、新たに追加すべきと考える項目があれば、提案いただきたい。

「１　協働の更なる推進」

委　　員：協働に関しては、これまでの取組がようやく形となり、大変良い成果を得られていると考える。今後も引き続き、企業や大学等と連携し、地域課題への取組を進めるとともに、若い世代が訪れる活気あるまちづくりを進めてほしい。

委　　員：蕨市はSDGsの理念である、ジェンダー平等にも取り組んでいると思うが、現状では依然としてジェンダーに対する偏見や、LGBTQのカミングアウトへの抵抗感があるなど課題がある。こうした状況をオープンにできるような環境づくりを進めることが重要だと考える。

また、蕨市は子育てしやすいまちである一方、子どもが小学校に通う年齢になると市外へ移ってしまう傾向があるため、教育環境の充実を含め子育て世帯が住み続けたくなるような明るく魅力的なまちづくりをしてほしい。

委　　員：現代の若い世代の自己肯定感が低い原因の一つに親からの教育が関係していると考える。市で実施している「パパ・ママ講座」では、おむつ替えやお風呂の入れ方などの実践的な内容が中心だが、これに加えて、子どもが自信を持ち、自己肯定感を高められるような講座があると良い。

委　　員：女性の出産や子育ての負担を軽減する支援が重要である。支援によって母親に心の余裕が生まれることで、子どもの健全な育成にも良い影響をもたらすと考える。

また、公民館等で開催される市のイベントは、コロナ禍で数年間中止された後は、定員に満たないことが増えた。子どもたちはイベントを楽しみにしており、内容も素晴らしいため、より多くの人に参加してもらえるように、イベントの周知を強化したほうが良い。

加えて、小学生向けの活動は、公民館等で安価または無料で多く実施されているが、中学生向けの活動は少ないと感じる。中学生は部活動に取り組んでいる場合もあるが、気軽に楽しく運動等したい中学生もいるため、もう少し中学生向けの活動を充実させてほしい。

委　　員：災害協定について、協定締結後も、実際に協定の内容が適切に実施されているかどうかを確認しないと、災害が発生した際に協定が機能しない可能性がある。イトーヨーカドー等、現在は市内に存在しない事業者との協定もあるが、協定締結後に見直しは行われているのか。

事 務 局：イトーヨーカドーとの協定は、セブンイレブンへのシェアサイクルステーションの設置など、災害に限らず様々な分野での協力を継続しており、その他の災害協定についても、適宜見直しを行っている。

会　　長：町会に配付しているタブレットは効果的に活用されているのか。

事 務 局：タブレットは、全３７町会に２台ずつ配付し、市からの連絡や町会運営等で活用しているが、活用状況は、町会によって様々であると思われる。この取組は、ポストコロナを見据えた町会活動を支援するため行ったものだが、デジタル活用の推進により若い世代が町会の担い手になる機会につながることも期待している。

会　　長：デジタルでの情報発信により、情報の取得と共有が容易になるため、市も積極的にデジタル化を進めてほしい。また、タブレットは、配ることが目的ではなく、まちづくりを進める手段の一つである。更に、若い世代が高齢者にデジタル機器の使い方を教えながら協力し、一緒に活動することで、若い世代の町会への参加も推進できると考える。

委　　員：まちのにぎわいづくりには、蕨市民以外の方にも蕨市でお金を使ってもらうことが重要である。例えば、公民館や市民会館等の施設を利用して開催されるコンサートやイベントのチラシ等で、市内の飲食店を紹介する取組があると良いと考える。

「２　職員力・組織力の更なる向上」

委　　員：行政改革プランの３つの柱は非常に的を射ており、これまでの取組や今後の方向性も明確に示されているため、良いと感じる。特に「職員力・組織力の更なる向上」として、市の職員が力を発揮できる環境を整えることが、行政改革として非常に重要であると考える。

委　　員：臨床心理士や公認心理士のような専門家を市や学校の職員の相談相手として活用することで、離職率の低下に対して有益な効果があると考える。

委　　員：市の最上位計画である「『コンパクトシティ蕨』将来ビジョンⅡ」の中で、図書館に関する記述が、電子図書館についての一行だけで、他には全く触れられていない。文部科学省の「これからの図書館像」によれば、行政の政策に図書館政策を含めることや、図書館がまちづくりや地域振興において中心的な役割を果たすことなどが重要とされているが、蕨市としての図書館に対する考え方や方針を示すべきだと考える。

事 務 局：『コンパクトシティ蕨』将来ビジョンⅡは、総合計画であるため各分野に関する詳細な記述は記載していないが、図書館に関する具体的な内容については、総合計画に基づいて策定される個別計画（「蕨市教育振興基本計画」等）で示されている。

委　　員：蕨駅西口に新しくできる図書館の開館時間については、市内に無料で勉強できる場所が少ないため、できるだけ遅い時間まで利用できるようにするべきである。もし、図書館の開館時間を延長することが難しい場合は、市役所や

公民館の一室を開放することも検討するべきである。

委　　員：無料で利用できる場所があるということは、若い世代にとっての魅力的なまちづくりにおいて重要な要素であると考える。
また、個人の自習に使うスペースだけでなく、グループでディスカッションや作業ができる場があると良い。

事 務 局：新図書館の開館時間については、他市の事例を参考にしながら、現在の開館時間よりも長くする方向で検討を進めている。
また、読書室以外にも子ども向けのエリアや中高生向けのエリア、グループ学習室等を整備する予定で、駅前の利便性を生かし、市民の皆さんにとって魅力的な施設となるよう進めている。

「３　自律した行財政運営」

委　　員：DX 推進が進んでいるが、議会の議事録作成についてはどのような状況か。

事 務 局：議事録については、すでに作成システムを導入済みである。

委　　員：DX の推進は重要な取組だが、まちのにぎわいやスマートウエルネスシティを推進するためには、デジタルコミュニケーションだけでなく、対面でのコミュニケーションも重要である。DX の推進は、目的ではなく、業務効率化や利便性向上のための手段であり、まちづくりの基本は、人と人との繋がりであるという点も重要であると認識してほしい。
また、AI による無人子育て相談の実証実験の成果と課題についてとデジタルデバイド解消のためのスマホ教室の実績等はどのようか。

事 務 局：AI による無人子育て相談については、コロナ禍で利用者が少なかったことと、連携していた京都大学の予算の関係で実験がその年限りで終了したため、利用は限定的であったが、AI ロボットを活用したチャットボットやリモートテレビ通話を通じて、コロナ禍でも気軽に子育てに対する悩みを相談できる良い機会になったと考える。
スマホ教室については、スマホ操作に不慣れな方を対象に、実際の端末を使いながら地図やメール、LINE、PayPay 等の操作方法を指導している。令和４年度には１３回開催し２３０名、令和５年度には２０回開催し２３８名の方が参加し、今年度も同様の内容で引き続き実施している。

委　　員：デジタルデバイド対策として、若い世代が高齢者にスマホの使い方を教えてサポートするような取組があると、若い世代が市民活動の一環として活躍できる場になると同時に、高齢者との世代間交流の機会にもなると考える。

委　　員：現在検討中の市の LINE 公式アカウントについて、導入の予定はどのように考えているか。また、導入する際には、QR コードを活用した周知方法も検

討してほしい。

事 務 局：来年度からの導入を目指しているが、詳細は検討中である。

委　　員：DX の推進には、メリットだけでなくデメリットもある。例えば、小・中学生に配付されている学習用タブレット端末では、低学年から容易に YouTube 等のコンテンツにアクセスできるなど、セキュリティ面で不安を感じる。今後、市が情報発信の手段として LINE を導入する際には、適切な対策を講じるとともに、市としてセキュリティ対策がきちんと実施されていることを示す必要があると考える。

会　　長：現在検討中の生成AIの業務への活用に関する実証実験について、生成AIは、適切に利用すれば業務の生産性を向上させるために役立つ手段だが、適切な利用をするためには職員への教育が必要であると考える。職員向けにマニュアルやガイドライン等を周知しているのか。

事 務 局：生成 AI は、文章作成による業務の効率化やデータ分析のサポート等での活用が期待される。これまでは無料の生成 AI を利用してきたが、今回より精度の高い有料の生成 AI の導入を検討しており、実証実験を通じて実際に業務の改善が見込めるかどうかを検証していく。

また、担当の情報管理課からマニュアルやガイドライン等を提供し、利用の履歴を情報管理課で確認し、適切な利用方法についても検証する。

委　　員：公民館の予約をオンライン化したほうがよい。現在は電話でしか予約できず、各公民館の空き状況が共有されていないため、予約が埋まっていても別の候補を提案することもできない。

また、シルバー人材センターの仕事をしていた際に、申請書の様式の改善を提案したが、様式が条例で定められており変更できないとのことであった。法律等で厳格に定められている場合は仕方ないが、コスト削減や生産性の向上のため、もう少し柔軟に検討することも必要だと思う。

事 務 局：ご指摘のとおり、前例などに固執せず、状況に応じて柔軟に改善していく意識を持つことが重要だと考える。

（２）その他

事 務 局：次回、第３回の１０月２４日（木）が最終回となる。これまでの会議でいただいた意見をもとに作成した意見書案について、議論いただいた後、議論内容を反映させた意見書を完成させたい。その後、市が作成する新たな行政改革プラン案について、２月よりパブリック・コメントを実施し、３月には新たな行政改革プランを策定する予定である。

以上